

第2回 燕市産業振興協議会 議事録

日 時：令和7年3月27日(木)

13時30分～15時00分

会 場：燕市役所3階301会議室

参加者：鈴木会長（燕市長）

星野委員（つばめ商工会 会長）

中島委員（つばめ商工会 副会長）

小林委員（日本金属洋食器工業組合 理事長）

池田委員（日本金属ハウスウェア工業組合 理事長）

矢代委員（協同組合つばめ物流センター 代表理事）

本間委員（燕商工会議所 工業部会 部会長）

山村委員（燕商工会議所 女性部会 部会長）

平出委員（つばめ商工会 商業部会 部会長）

中上委員（第四北越銀行 燕支店長）

池内委員（協栄信用組合 理事長）

風巻委員（巻公共職業安定所 所長）

佐藤委員（公益財団法人燕三条地場産業振興センター 専務理事）

田中委員（日本労働組合総連合会 新潟県連合会 県央地域協議会
議長）

遠藤委員（燕市副市長）

事務局：産業振興部長、企画財政部長、商工振興課長、観光振興課長他

会議次第：

1. 開 会

2. 会長あいさつ 燕市長 鈴木力

3. 議 題

(1) 新年度の産業振興施策について

令和7年度産業振興施策について、商工振興課より商工振興施策の説明、観光振興課より観光振興施策についての説明があった。

（質問）

観光振興施策について、産業観光をする上でお昼の食事をする場所が非常にもの足りない点についてはどのように考えているか。

→観光協会で団体の受入可能な食堂等のリストも作っており、それを活用した

飲食店マップ等も進めていきたい。また、用途地域の見直しも検討していくので、食事をする店を建てるができないような地域でも規制緩和に向けて、アプローチしていきたい。

「まち」を継続的に発展させていくために産業の発展が大前提だが、小池地域の大規模な造成の動きがスローだという声を聞く。この点について教えていただきたい。

→いろいろとやってはいるが、規制が強固で壁を破れないでいる。今後も頑張っ

(2) 各業界における景況について

各委員から業界の景況についてコメントをいただいた。

◆公共職業安定所

- ・1月有効求人倍率は1.51倍で県内13職業安定所のうち4番目に高い。県は1.47倍で全国では6番目に高い。全国は1.26倍。全国的には令和3年以降求人は回復し、令和4年度は過熱気味だった。令和5年6月は少し落ち着き、横ばいだったが、巻管内は依然と人手不足感は続いている。
- ・高卒求人については、進学志向の高まりにより、令和7年3月卒の高卒求人の有効求人倍率は6.9倍と非常に高かった（前年度は5.9倍）。令和8年3月卒の高卒求人受理開始は6月1日となっている。

◆金融機関

- ・人手不足の課題は一過性のものではなく、今後続いていく問題。減っていくことは当たり前で人の取り合いになる。そのことから経営者の課題は人件費の上昇に絞られてきているが、今後は従業員に選ばれる企業になっていくことがポイントと思う。引き続き市からも中小企業の支援について行っていただきたい。
- ・金融機関の経営について、これまで金利が3回上がり、地方の金融機関は厳しい状況にある。そのような中でも、中小企業の皆様には、経営サポート資金や、市の制度融資などを活用していただきたい。また、国の補助金制度と休眠特許の活用についてセミナーを実施し、非常に関心の高い内容だった。このようなセミナーを継続的に行っていく。
- ・事業承継関係の詐欺について、今後増えていく話かと思うので、そのような話があった場合は金融機関に相談いただきたい。

◆労働団体

- ・今年の春闘について、交渉には3つの柱があったと感じている。
 - ①賃上げ
 - ②人材不足への対応。賃金だけではなく労働条件の改善も求めている。
 - ③高齢者の対応。定年も段階的に延長されているが、定年後の雇用条件への対応も必要。

◆産業支援機関

- ・インバウンド観光客の増加。特に台湾からの観光客が多い状況が続いている。

◆産業団体

- ・旧商店街では、高齢者の購買の動きが悪く、打つ手がなくなる危機感がある。
- ・人手不足の課題は製造業から多く聞かれ、女性の活躍が必要と思うが、特に小さい子供を持つ女性が働きやすいように、保育の観点でもそのように何か対策があると特に若い女性がもっと活躍できるのではないかと思う。
- ・地場の製造業の景況は悪い状況が続いている中で、いかに受注につなげるか部会で検討している。地域内では卸部会やメーカーと協力していくことを検討し、地域外では他の地域の方から情報をもらえるような取り組みを行っている。
- ・受注をもらうには、他社との差別化が必要で、技術力だけでなく、品質や脱炭素などあらゆる管理が重要となる。今後も継続的に市と連携して取り組んでいきたい。
- ・業務用厨房用品卸業では、インバウンドなどで需要は増えているが、人材不足、食材などの値上がりにより、最終ユーザーであるホテルや外食産業が苦しい状況にある。それゆえに厨房用品などの買換えなどに結び付かない。また、量販店卸業でも、各ホームセンターの企画商品が進んでおり、卸業を通じたメーカー品の仕入れが減っている。
- ・業務用厨房用品製造は2年前の5月から個数、売上が低迷している状況。
- ・環境問題という点から、トリクロロエチレンが大気基準を超過したという報道がされることがあるが、多くの事業所では取扱いについてガイドライン等に基づいて実施しており、年間の基準は満たしている。公表の仕方については、現場のモチベーションが下がらない方法を考えてほしい。
- ・金属洋食器製造では、自動研削工程は市の支援もあり、組合の共同受注事業という形でつなぐことができたが、外注の廃業が進んでおり、消滅しそうな工程は他にもいくつかある。外注先を複数のメーカーで共有するということはこの地域特有だが、外注先が減少していることからサプライチェーンが崩れてきている。そのような中、外注先が多能工として担うことが始まっている。

- ・紙器パッケージでも全国的に見ると、質の良いものが残る傾向がある。インバウンド客が増えてきていることからお土産用の箱が好調であるが、消費の形が物から体験型のサービスに変化してきていることもあり、これから物を買うという消費の形は減っていくと思われる。
- ・定年を延長することが増えているが、定年前に認知症など病気を発症するケースもあり、今後、シニアの活躍が重要なところではあるが、対応策を準備することが必要と感じている。
- ・飲食業では地域差があると感じている。その中でも商工会女性部を中心として、旧商店街を盛り上げようとする動きもある。

(3) その他
特になし。

4. その他
事務局より職員の異動について連絡があった。

5. 閉 会

参考資料 1
配布 資料

- ・令和7年度当初予算のポイント（抜粋）
- ・令和7年度中小企業支援制度